



## ボーンホルム島に辿り着くまで

羽田からデンマークへはフィンランド経由を選び、フィンランドの建築やデザイン、陶芸作家、また多くの木に囲まれた街並みに興味があったため留学前にヘルシンキに一週間ほど滞在した。

8/19 羽田→ヘルシンキ  
ヘルシンキに6日間滞在  
美術館や国立公園を周る

ヨーロッパに行くのは初めてで一人ということもあり  
初めの数日間はかなり緊張した  
ヘルシンキでの入国審査にドキマギしながら英語で  
質問に答え、無事入国



8/25 ヘルシンキ→コペンハーゲン

コペンハーゲンの自転車利用者の多さに驚く  
美術館に行こうかと思うも、デンマークの学生証を持  
つと入場無料になるという情報を聞き、まだ持っていない  
なかったため次回に行くことにして街を散策する



8/27 コペンハーゲン→ボーンホルム島  
バス、フェリーに乗り、スウェーデン経由で  
これから半年生活する島に到着する

住む街 Nexo

# 大学での授業が始まる

## ◎留学先

デンマーク王立アカデミー  
Royal Danish Academy Glass and Ceramic

デンマークの建築、美術、作品保全を扱う学校で、工芸科はコペンハーゲンからバスとフェリーでおよそ3時間ほどの場所に位置するボーンホルム島に校舎があり、ガラス、陶磁の2コースを専門としている。デンマーク国籍以外の生徒が多く在籍するため、授業は全て英語で行われる。



## ◎9月のスケジュール

- ・新入生顔合わせ、自己紹介
- ・島の案内、大学施設の説明
- ・ウェルカムパーティー
- ・クラフトウィーク
- ・釉薬演習開始  
(9/5~10/9 の秋休みまで)
- ・島での素材採集
- ・きのこ狩り

新学期は9月から始まるため、  
交換留学生は新入生と一緒に  
大学や島の説明を受ける。  
9月に Craft Week が開催される  
ため、様々な展示やオープニング  
セレモニーに参加するなど、島の  
中をバスで移動することが多かった。  
まだ慣れない英語での空間に毎日  
へとへとになり、帰ってからは  
倒れるように布団に沈み込んでいた。

ラトビアの子に撮ってもらいました→



## ◎釉薬演習

釉薬の実験を重ねて原料の特性を学んでいく釉薬演習が始まる。  
ボーンホルム島では陶芸やガラスの原料となる素材が取れるため  
バスで島中を周り、自ら素材を採集して使用する Sutady Trip から  
始まり、大学にある様々な原料と調合してテストを繰り返していく。  
主にグループ活動がメインで、英語でコミュニケーションをとり  
自分たちは何に着目して実験を進めていくか話し合いながら進めていく。



土を採集



湖の近くでランチ



窯詰め

# 生活のあれこれ



デンマークは酪農国であり、島の中では放牧されている馬や羊、牛などをよく見かける。野生のウサギや鹿にも時々出くわす。



週に3回 Free Food というスーパーで廃棄されてしまう果物やパンを一回 700 円ほどで大量にもらえる機会があり、物価が高いデンマークではとてもお世話になっている。写真は一回分の量で、紙袋の中にはパンが詰まっている。



ボーンホルム島は平な地形で穏やかなバルト海に浮かぶ美しい島と聞いていた通り、どこを歩いても海や森、小さな建物の美しい景色が広がる。ここで暮らしている人も穏やかなのはこの島の環境からきているような気がする。

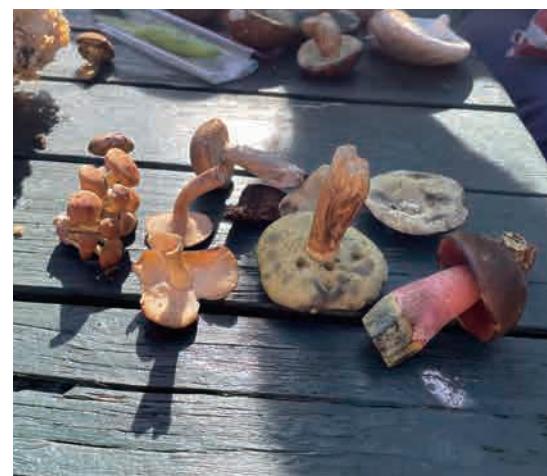
写真は学校の帰り道夕方7時ごろの景色。海のすぐ近くにあるため毎日海を横目に学校に通う。



外食は高くてできないが、Free Food でもらったふんだんの野菜と果物のおかげで彩りのある食生活を送っている。デンマークでは写真にあるロブロというライ麦ベースのパンを日常的に食べると聞いた。



自分の暮らす部屋からの景色。長屋の一部屋を借りて生活している。



近くの森できのこ狩りのレクチャーを受ける。どれが毒ありでどれが食べられるのか、皆真剣に聞いていた。